フィールド（現場）からの風 652

宮田守男

人生を前向き捉えたい

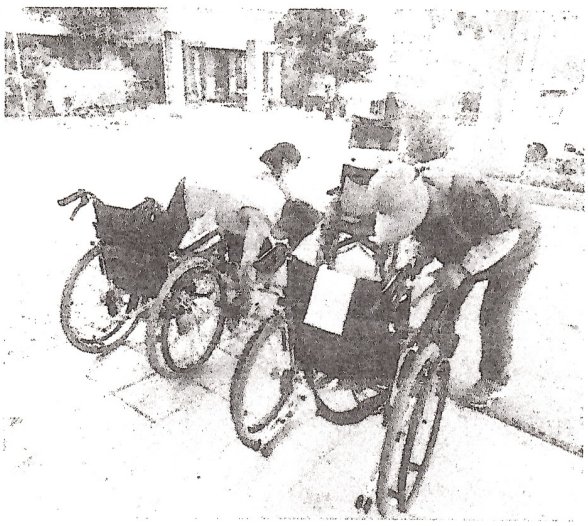
昔から習い事を始めるなら「6歳の6月6日がよい」とされるのは室町時代に能を大成した世阿弥が記した「風姿花伝」の記述に由来する。なぜ6月6日かというと、指を折り曲げて数えると6のときには小指が立つので「子が立つ」の縁起のよさからだ。子どもに限らず、誰もが新しい一歩を踏み出すのに良い日としてはどうだろうか。

人は誰しも年を取るが、なぜか人の年齢を聞いている場面に出会うことが多くなってきた。自分も年を重ねるごとに、人の年齢を聞いている事に驚かされる。下重暁子さんの著書「年齢は捨てなさい」に、実年齢は82歳。でも還暦で生まれ変わったので22歳。不思議なことに、これまでの人生で今が一番頭も体もさえている。判断力や決断力も良くなってきた。と自信を持って思う。とつづっている。老いと向かい合いつつ人生を前向きに捉えた姿勢が素敵に思える。他人に年を聞かれたら「もう歳だから…」と答えず72歳の私も「いま12歳これからが本当に楽しみ」と答えられる日々を歩めたらどんなに楽しい人生を送ることができるのだろうか。

「つばなれ」という寄席の隠語は、客が10人を超える意味だ。一つ、二つ、三つ…と数え、十（とお）以上は「つ」がなくなるためだ。客席を見て「やっとつばなれした」のように使うのだが、高年齢のメンバーで構成する団体の集会でも、参加者が年々減少しているため会の存続に悩む場面が多くなってきている。日本語には「いち、に、さん」という漢語系の数値に対して、「ひ、ふ、み」という和語系の数値がある。二十を「はたち」、千は「ち」、万は「よろず」などの言葉が高齢者の数を表現する社会が到来しても、人生を謳歌する多くの皆さんの笑顔が「千重に百重」に広がる社会で有ってほしいと祈るばかりだ。

地域経済が期待するインバウンド需要に懸念の情報が伝わってくる。コロナ変異株が拡散の情報だ。今の日本での感染は沈静化しているが、大阪万博では海外からの来場者は延べ380万人を見込み、1日当たり10万人規模の人出では水際対策は事実上不可能だ。世界各地から伝わる感染情報は日増しに深刻に思えてしまう。再び日本が「コロナ列島」と化さないための対応を望むばかりだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



大北地区賛助会白馬小谷グループの白嶺ボランティア。草刈り・車いす拭き作業で充実した時間を過ごす